

主要科目の特長

こども学科

| 授業科目名 | 特 長 |
|---------|---|
| 保育内容総論 | この授業は、これまでに学んできた各領域に関する知識や実践で得た内容を振り返りながら、総合的に保育を捉えて学ぶことを目的とする。保育に関する専門家として、この授業における学びを実践の保育の場で生かせるよう、演習の前提となる講義を行うとともに、事例検討やディベートを行って考えを深め合う。リアクションペーパーを記入して、授業の中でフィードバックを共有する。 |
| 保育と健康 | 講義を中心として、必要に応じて視覚教材や演習を取り入れるとともに、グループワークで議論や意見の共有を行う。また、リアクションペーパーを使用し、フィードバックを共有する。 |
| 保育と人間関係 | 領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の人間関係を育むための保育実践について検討、理解する。問題解決型学習を軸として保育現場の事例を手掛かりに、子どもの人間関係の発達について様々な観点から考察する。また課題はその都度添削し、フィードバックする。 |
| 保育と環境 | この授業では、環境を通じた保育を前提に、保育者の役割についての理解を深め、幼児の発達にとっての環境の意義について学ぶ。保育者としての実践的な技能と豊かな知識を身に付けるため、講義を中心としつつ必要に応じて適宜視聴覚教材や演習も取り入れる。また、グループワークで議論や意見の共有を行う。リアクションペーパーを記入し、フィードバックを共有する。また、定期試験は返却する。 |
| 保育と言葉 | この授業では人間にとっての言語の役割を理解し、それをふまえたうえで子どもの言語獲得・言語発達について学ぶ。さらに子どもが言葉を使って生活をし、社会に参加していく中での保育者の役割についても考察していく。授業は講義を中心とし、専門領域の知識を深めるための視聴覚教材の視聴やグループワークを取り入れる。また、言葉遊びや児童文化財を用いての演習発表を行い、授業内で演習発表へのフィードバックをする。定期試験を実施し、採点の後返却をする。 |
| 保育と表現 | 本授業では、幼児教育における領域「表現」に関する知識と、幼児の多様な表現を支えるための技能や表現力を実践的に学ぶ。音楽・造形・身体といった様々な表現方法を統合した活動を取り入れることで、魅力的な表現あそびを計画できるようにする。実際に活動を考え体験し |

| | |
|-------------------|---|
| | <p>合い、学生間で意見交換することを通して、表すことと受け止めることの両方を体験的に学べるようにする。ポートフォリオに毎時間の学びを記録することで、知識の定着を図る。作成したポートフォリオは最終授業後に提出してもらう。毎回の授業後にリアクションペーパーの提出を求め、寄せられた質問に対しては次時に回答し学びを深められるようにする。レポートや発表した活動について、授業内で講評、解説を行う。</p> |
| 保育内容の指導法（健康） | <p>演習と講義を通して、必要に応じ ICT 機器等を取り入れるとともに、グループワークで議論や意見の共有を行う。また、リアクションペーパーを使用し、フィードバックを共有する。</p> |
| 保育内容の指導法（造形表現） | <p>本授業では乳幼児の表現活動、特に造形表現を中心にした保育内容の展開や指導法を実践的に学ぶ。実際に保育現場で用いられることの多い素材や道具に触れることで、その特徴や指導上の留意点を経験的に学べるようにする。指導案の作成や模擬保育を通して、学修した知識を元に保育を計画できる実践的な力の獲得を目指す。適宜、グループワークを取り入れ、多様な表現や視点に気付けるようにする。また素材や道具、環境の設定と関連させながら安全管理についても取り扱っていく。ポートフォリオに毎時間の学びを記録してもらうことで、知識の定着を図る。作成したポートフォリオは最終授業後に提出してもらう。毎回の授業後にリアクションペーパーの提出を求め、学生の関心を捉えるだけでなく、寄せられた質問に対しては次時に回答し学びを深められるようにする。レポートや発表した活動について、授業内で講評、解説をする。</p> |
| 保育内容の指導法（身体表現） | <p>実技と講義を通して、必要に応じ ICT 機器等を取り入れるとともに、グループワークで議論や意見の共有を行う。また、リアクションペーパーを使用し、フィードバックを共有する。</p> |
| 保育者論 | <p>この授業は、保育者に求められている資質や期待される役割を理解することを目的とし、保育者としての専門性を保育現場の実態から学ぶ。授業は講義を中心とするが、ディスカッションやカンファレンスも含め実践的内容を取り入れる。考察発表に関しては、授業の中でフィードバックを共有する。</p> |
| 特別支援教育Ⅰ（障がい児保育含む） | <p>現在、さまざまな障害をもつ子どもたちが幼稚園や保育所等において地域の子どもたちとともに生活している。この授業では、一人ひとりの特別なニーズの特性と心身の発達に関する基礎を学ぶ。授業はオンデマンド配信で行い、毎回小テストを実施する。小テストの採点結果には、解説を付ける形でフィードバックを行う。</p> |

| | |
|----------------|--|
| 幼児理解と教育相談 | この授業では、幼児に関する基本的な特性について理解を深めるとともに、その知識を基礎にして保護者を想定した教育相談に関する基本的な力を身につける。そのために、学習資料をファイル化しながら保育者に求められる基礎的な知識を身につけていく。 |
| 保育・教職実践演習(幼稚園) | これまでに習得した知識や技術が幼児教育・保育の専門職として十分なものであるか、保育観・子ども観がしっかりと構築されているかを検討し、教職・保育職を目指す者としての自己課題を認識する。それを踏まえて、保育指導案による模擬保育、ロールプレイ、現職者との交流、事例研究、PP作成・編集といった多様な課題に挑戦し、保育者としての資質向上を図る。課題内容により、講義、実技、グループワーク、観察など多様な方法を用いる。また、専任教員全員が専門性を活かし様々な形で授業に関わるとともに、現職者など学外の専門家も交えて、授業を展開する。随時フィードバック（解説、講評等）を行う。 |
| 教育実習研究 | 教育実習を行うために必要な基本的知識・技術の習得を目的とした事前指導を実施する。その中で、保育の記録や指導計画の立案、評価、改善する力を身につける。また、各実習終了後の事後指導では総括的な自己評価を行い、保育者としての実践力習得をする。2年間を通し子どもの実態や教諭の役割について学び、様々な方法で主体的に学ぶ力を養う。 |
| 保育原理 | 保育の意義について学ぶとともに、保育の内容・方法、保育所の社会的役割について知り、そこから保育活動を支える原理を理解する。さらにわが国と諸外国の保育観と歴史を学ぶことによって、これまでとは違った新たな保育観・保育理論を打ち立てる。また、それらを学術的に整理する技術、理論立てて他者に説明する技術も学ぶ。 |
| こども家庭福祉 | 児童の権利に関する条約、貧困家庭や外国につながる子どもとその家庭への対応、こども家庭福祉の意義と歴史の変遷、制度、課題、動向と展望について学ぶ。授業は講義を中心に進めていくが、必要に応じて映像教材やディスカッションなどを取り入れていく。リアクションペーパーは翌授業でフィードバックし、レポート・定期試験は返却する。 |
| こども家庭支援の心理学 | この授業は、乳幼児期から老年期までの生涯発達のプロセスや、各時期の課題について学ぶとともに、家族・家庭の意義や機能を学び、親子関係や家族関係等について包括的に捉える視点を習得する。保育者として子どもや保護者とかがかわる際に、人の生涯にわたる発達を見通す力を養い、子どもの育ちが社会的状況や家族の状況に大きく影響を受けていることを学ぶことで、子どもにも保 |

| | |
|---------------|--|
| | <p>護者にも寄り添った援助ができるようになることを目的とする。授業は講義を中心に、グループワークでディスカッションを行う。また、平常試験、レポート課題等を実施し、講評・解説等のフィードバックを行う。</p> |
| 乳児保育 I | <p>乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状・課題等を理解する。3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と運営体制についての理解や乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について学び、理解を深める。</p> |
| こどもと音楽(ピアノ I) | <p>柔軟な感性を持ち合わせている幼児期の子どもは、音楽を通した様々な表現活動を通してさらに豊かな情緒を育んでいく。子どもとの音楽表現活動において、保育者が身につけておかなければならない保育技術の一つがピアノ技術である。この講義を通して、ピアノ演奏のための基礎的技術・楽典の知識を身に着けると共に様々な音楽表現を学ぶことが出来る。さらに保育現場で毎日歌う生活の歌や童謡などの弾き歌いの基礎技術を習得することが出来る。実技指導の際に、各々のレベルに応じて課された課題曲に取り組み、規定曲数を終えなければ実技試験を受ける事が出来ない。日々の練習を習慣化し、意欲的に取り組むことで実践に役立つピアノ技術を身につけることに繋がる。学生は約3名の進度別グループに分かれ、45分間はピアノ実技指導を受け、45分間は楽典の知識を学ぶクラス授業に出席し1コマ分とする。実技と知識がリンクするように双方の授業で演奏のフィードバックを行い学習を深めていく。</p> |
| 保育教材研究 I | <p>この授業では、教育・保育の場面で行われているエプロンシアターやパネルシアターを自ら製作し、子どもの興味や保育者の配慮等を考える。さらに現場で活用するための知識や技術を身に付ける。授業形態は、個人による製作と演習形式を中心とする。展開実習については、講評・解説等フィードバックを行う。</p> |
| 保育実習研究 I | <p>実習の意義や目的、実習の方法内容、実習に際しての留意事項等、実習について総合的に学ぶとともに、実習における観察法や記録の取り方について理解する。実習後には自己評価やグループワーク等によりフィードバックを行い、各自の実習課題を明確にする。</p> |